校長印		担任印		学年	年　組	行数	

○「ふくろとじ」にする

大切にしたい議論の見えないルール

五年一組　岩月　理子

「議論をしよう。」共に生きるために。」

この言葉が、本を読み終わった今も心に残っている。

わたしが読んだ「おれたちはギロンする」は、議論好きの芽衣と、議論初心者の陽太が身近なテーマで議論することをきっかけにぶつかり合いながら成長していく物語である。

わたしが芽衣をすごいと思ったのは、芽衣ならかん単に陽太を言い負かすことができるのに、陽太を尊重して聞く姿勢をつくることができるからだ。おたがいの考えのちがいを知り、さらに自分自身の考えを深めることができる。

また、議論していく中で自分の意見が絶対正しい、という考えではなくて、陽太の意見に共感できるところは受け入れて、「そういった考え方もできるね。」と伝えたところだ。

（高学年用）

（20×10）

、。「」（）は一字分として書く。書くことがらが変わるときは、行をあらためて、一字下げる。
話しことばの「……。」も行をかえる。
詩は全行一字さげに書く。
たて書きのときは、漢数字を使う。

○「ふくろとじ」にする

校長印		担任印		学年	年　組	行数	

この場面を読んで、わたしのクラスでもテーマを決めて議論が行われたことを思い出した。

わたしは学級委員をつとめているからみんなの前に出て話を進めたり、意見を集めることがある。その時に、自分の意見を通そうとして強い言葉を使っていたり、友達の意見を笑う子がいる。そして、わたしもみんなとちがう意見を言ったら空気が読めないとか、笑われたり否定されたらどうしようと不安な気持ちになる時があるから、議論ってむずかしいなと感じていた。

でも、これから先もずっと何から何まで、意見が合う友達なんかいない。だから、おたがいの意見をみとめ合い、バカにしたりせず相手を尊重する、芽衣と陽太のような議論ができたらいいなと思う。

芽衣のおばあちゃんが言っていた「大人だって、うまく議論できず相手をきずつける人がいっぱいいるの。あなたがたはまだ小学生。

（高学年用）

（20×10）

一（一）は一字分として書く。書くことばが変わるときは、行をあらためて、一字下げる。
話しことばの「……。」も行をかえる。
詩は全行一字さげに書く。
たて書きのときは、漢数字を使う。

○「ふくろとじ」にする

校長印		担任印		学年	年　組	行数	

うまくいかなくて当たり前。」という言葉で勇気を出して失敗をおそれず自分から進んで発言することで議論の場を変えていきたいと思った。自分とみんなの考えとのちがいを知り、一人一人の考えを大切にして議論の答えを見つけていきたい。

この本を読むまで相手を言い負かすことができたらすごいとか、議論には勝ち負けがあると思っていたけど、論ぱや口げんかではない「対等な議論」をすることが大切であり、相手を尊重するという、見えないルールを守る必要があると、芽衣と陽太に教えられた気がした。発言する人も、受け止める人も思いやりがあれば、むだな争いを生まずに、新しい知識やちがう視点からの考えを得ることができるはずだ。

まずは自分から、共に生きていくための議論の輪を広げていきたい。

（高学年用）

（20×10）

「、」「。」「」（）は一字分として書く。書くことばが変わるときは、行をあらためて、一字下げる。
話しことばの「……。」も行をかえる。
詩は全行一字さげに書く。
たて書きのときは、漢数字を使う。